

カリヨン

CARILLON

日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字秋田短期大学

卒業生座談会

P2-7... 地域の福祉を支える

介護福祉学科の 可能性

P8-14... 1年間を振り返って

～イベント報告～

P15... 本学大学院の修了生より
「がん看護専門看護師」が誕生しました

P16... CARILLON INFORMATION

2019



○カリヨンは（フランス語：Carillon）
教会の塔などに吊り下げられる音程を異にする多数の鐘。16世紀以来、特にフランドル地方（現フランス領）で発達し、自動装置を持つものもある。赤十字の理念より「人道・博愛・奉仕」を3つの鐘に投影した本学のシンボルとして、平成8年の短大開学時に設置された。これにちなんで本学学園祭も「カリヨン祭」と呼んでいる。

No.08

宣誓式の様子 (P09)

卒業生座談会

《 地域の福祉を支える 》 介護福祉学科の 可能性

開学して23年間で、1,000人を超える卒業生を輩出した「介護福祉学科」。高学歴志向や少子化の影響もあり、志願者数・入学者数が減少している今、「介護福祉学科」が持つ可能性について、秋田県内の介護福祉の最前線で中心的な存在として活躍している3名の卒業生からお話を伺いました。

日本赤十字秋田短期大学
介護福祉学科
井上善行 教授
モデレーター（進行役）

社会福祉法人秋田聖徳会
障害福祉サポートセンター 聖和
主任
八代雄市 さん
（介護福祉学科第2期生）





井上善行〇日本赤十字秋田短期大学介護福祉学科教授。1998年から特別養護老人ホームの生活相談員や居宅ケアマネージャーに従事。2011年から大学院講師、准教授を経て、2017年4月から現職。



八代雄市さん〇2期生。卒業後は高齢者福祉の事業所で勤務していたが、3年前から重度の障がい者福祉の分野に関わっている。小中学生のころ、祖父を自宅で介護する母の姿を見て育つ。自然と介護という仕事が良いと思うようになった。



菅原のぞみさん〇6期生。現在は地域包括支援センターにて勤務している。もともとは別の学校の音楽科に通っていたが、教員免許を取得するための介護実習へ。そのときに何もできなかったことがきっかけとなり、本学の介護福祉学科に入学した。



加藤健悦さん〇2期生。卒業後は6年ほど高齢者福祉施設で勤務し、現在は独立し、有限会社ルークを設立。グループホームを運営している。もともとは保育士になりたいと考えていたが、高校時代のボランティアで老人ホームに行ったことが介護の道へのきっかけに。

井上 今日は皆さん、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。卒業生の皆さんに、いろんなお話を伺えればと思っています。まず初めに、介護の道に興味を持ってくれる人が少なくなり、入学者数が減少していることについて、何か打開策はあるのでしょうか？

加藤 私が介護の道に進んだきっかけは、高校生のときのボランティアでした。そもそも今の時代、若い世代は『老人と触れ合う機会』が少ないと思うんです。社会人向けの資格取得ができる施設などでは、実習の機会すら減っています。介護施設を運営する側も、一般の方や子どもたちが気軽に施設に出入りできるできる

ような環境を作っていく必要がある。今、私が運営している施設の隣に小学校があるので、学校で授業をさせてもらったり、授業の一環として子どもたちにボランティアとして来てもらったりしています。子どもたちが来るだけで、施設にいるおじいちゃんおばあちゃんは大喜びです。そういう機会があると子どもたちには「楽しかった」という記憶になって残るんですよ。卒業するころには「こういう場所で働きたい」ということを言う子どもも増えてきたんです。もっと高齢者と子どもたちが触れ合う機会を増やしていくべきだと思います。子どもたちは学校でやるべきことが多いのかもしれませんが、介護

の授業は其中で少ししかない。なんとか増やしていけないかなと思いますね。幼いころから老人と関わるのが、もっとできるようになればと思います。

菅原 介護施設って、閉鎖的に見えるのかもしれませんが、実は以前に比べるとずいぶんオープンになってきています。地域に根ざすことを意識している施設も増えてきました。私が学生の頃や、就職したばかりのころに比べて、かなり変わってきています。

八代 小中学生にとっては施設にいるご老人たちは「おじいちゃん・おばあちゃん」というより、「ひいおじいちゃん・ひいおばあちゃん」に当たるんですよ。だから



(介護福祉学科第6期生)

菅原のぞみさん

医療法人惇慧会
勝平地域包括支援センター
主任介護支援専門員



(介護福祉学科第2期生)

加藤健悦さん

有限会社ルーク
代表取締役

◀ 地域の福祉を支える ▶

介護福祉学科の可能性



余計に「触れ合ってた楽しかった」という体験がない。ボランティアや授業で訪れたときも、経験がないので、どう接して良いのかわからないんですよね。施設は地域密着ということで、郊外ではなく街中に増えてきています。もっと子どものうちから、高齢者に接する機会を増やしてほしいと思います。

菅原 介護職の地位が下がってしまったことも、志す人が減ってしまう理由のひとつではないかと思っています。介護現場って「働く先がない人が行く場所」とか「誰でもできる仕事」というイメージを持たれています。でも、そうじゃない。もちろん、自宅で介護をしている方もいて、誰でもできるものでなければならない側面もありますが、日赤短大で学んだ人たちは、その1歩先、2歩先を行かなければ。福祉業界の仲間の中には、自信を持っていない人が多い。それをサポートして、ともに成長していかなければと思っています。私自身はこの仕事にやりがいを感じていますし、やれることや可能性を拡げている仕事だと思っています。

加藤 介護人材を増やすためには、保護者の方の考え方も変える必要があります。

今「介護は将来性がない仕事」と思われている。それは大きな勘違いです。給料もしっかりしていますよ、将来性もありますよということを、もっとPRしていかなければならない。もちろん、この業界の良いところとして、給料に反映されない部分の「やりがい」の大きさが魅力のひとつであることも理解してもらいたいとは思いますが、客観的な判断ができる基準として、勤続3年くらいして、こんな資格を取得したら主任に昇格したとか、ケアマネージャーや社会福祉士の資格を取得すると、これくらいの給料になりますよとか、もう少し安心してこの仕事を選べるような環境を整えていくべきじゃないかと思っています。なかなか難しいことだとは思いますが…。

八代 そうですね。みんな生活がかかっているわけですから、待遇や給料というのは大事な部分だと思います。実際、年功序列で給料が上がっていくような仕組みではないですし、資格を取ったからと言ってそれをぶら下げているだけでは意味がない。取った後にどう活かせるかがとても大事です。

井上 このキャンパスには、看護と介護福祉の2学科がありますが、それについてはどうでしょうか？

菅原 介護と看護がどう違うのかというと、非常に難しいです。ただ、や

れることは介護のほうが幅広いなと感じています。介護のほうが守備範囲が広くて、やらなくてはならないことも多い分、やりがいを見つけやすい。ただ、その良さを伝えるのはすごく難しいし、なかなか機会も少ないのが現状なんです。

加藤 本来は看護も、患者さん一人ひとりを大事にして接するべきですが、介護という仕事ができただけで「一人ひとりとの繋がり」という部分が切り離された感があるんですよね。看護にも、介護と共通することはあるけれど、介護はその「人との繋がり」の部分に特化し、より大事にできる仕事なんだということは言えるんじゃないでしょうか。もちろん、看護師さんでもやっていないわけではないから、一概に言えないのですが…。利用者とコミュニケーションを取って、自分と会話をしていくことで元気になってもらえる。その姿を目の前で見ていることが、私は楽しいと感じています。もちろん、医療としてのリハビリは、通えば歩けるようになるし、自宅復帰につながっていく。でも私たちもそれらの知識を覚えて、見よう見まねでマンツーマンで接していくこと



で、それ以上の効果を生み出すことがある。そういう経験を重ねていけるのが介護の楽しみです。そういう楽しさを見つけていってもらいたいと思いますね。

八代 私は母が看護師の資格を持っていて、介護福祉士養成校の教員もやっていました。だからはっきり分けるべきものなのかはわかりませんが、より生活に密着しているのが介護なのかなと思っています。しかし、なんで介護を題材にしたドラマってあまりできないんでしょうかね(笑)。現場では、連続ドラマにしたっていいくらいのことが次々と起こるんです。お互いに愛着も湧いて信頼関係もできて、時には怒ったり怒られたり、一緒に涙を流したり…。治療に携わるという部分では、圧倒的に看護師よりも介護福祉士のほうが関係が濃んじゃないかと思います。介護は、その方の生き方を左右するところまで関わる。それと同時に、介護する側の引き出しの無さとかが露呈されていったりするから、もっと頑張らなきゃというモチベーションにつながったりしています。

菅原 勉強したことだけじゃ対応できないんですよね(笑)。本当に、泣いて喧嘩して抱き合って…。

八代 そうなんです。亡くなったら終わりということもなくて、その後も家族の方との関係とかもあって。形式的なケアではなく、人と人との関わりがつながっていきますよね。

菅原 うちの主人は、先天性の障がいを

持っていて、普段ヘルパーさんにサポートをお願いしないといけないんです。当初、お願いをするにあたって、私は医療的なサポートもしてもらえるので「訪問看護」として看護師のほうが良いんじゃないかと思いました。でも、主人はヘルパーさんが良いと言って、「訪問看護」を選んだ。どうしてなのか聞いたら、「医療は障がいの部分を見るけど、介護福祉士は生活全般をサポートしてくれるから」と。疾患ではなく、生活全般を見るのが介護福祉士である、ということを主人に言われて初めて気づいたんです。そこが看護と介護の大きな違いなんだと。介護福祉士は、病気のことだけでなく「どうしてほしいのか」「どんな気持ちなのか」を気にかけてくれる存在であり、自分もそうでありたいと思いました。



加藤 介護福祉士は、生活全般をフォローしなくてはならないんです。体の洗いや洗髪の仕方を授業で教えてもらったとしても、実は人によってやり方は違いますよね。仕事をしていると「もっと気持ちよくさせてあげたい」と思う。私はそれで洗髪のプロは理容師や美容師だと



思って、床屋さんに洗い方を教えてもらったことがあります(笑)。でも、そういう突き詰めていくことがやりたいし、そういうことをできるのが介護福祉士の仕事であって、楽しいと感じる。提供できる引き出しを増やして行って、喜ばせたいんですよ。自然と料理も上手になって、なんでも作れるようになりました(笑)。

菅原 私は関わった方々に、納得していただける「よい人生のお見送り」をしたいと思っています。人の人生の最後のときに関われるって他になかなかない仕事だと思っています。これまで何度か、利用者のご家族の方に「人が亡くなっていく仕事なのに、やりがいてあるんですか? 必ず死ぬのに、どうして頑張れるんですか?」って聞かれたことがあります。他の仕事であれば、よそのお宅にいくことってあまりないですし、人の死という大切な節目に立ち会うこともあり得ない。最期に「ありがとう、良かった」と思って亡くなってもらいたいなという思いがあるので…。亡くなってから感想をうかがうことはできないのですが、そう考えると、「人生のお見送り」をするからこそ、やりがいを感じるんだと思います。

八代 人の死や、人の人生に携わる経験は、なかなかない。そして人の人生に関わるということは、そのまま自分の経験に

◀ 地域の福祉を支える ▶

介護福祉学科の 可能性

もなっていますよね。

井上 介護福祉の分野はできることの幅が広いことが魅力だと思います。具体的に何か活動はされていますか？

八代 私は福祉関係者を中心に、認知症や特殊詐欺のことを知ってほしいということで劇団「ちいさなお世話」を立ち上げました。学校の先生や薬剤師さんなどもいて、職種はみんなバラバラなんです。認知症詐欺のシナリオとか、自宅の看取りというテーマのシナリオもあります。ユーモアを交えながら、劇とスライドを交互に上演するようなスタイルです。介護の魅力というテーマでも上演を依頼されたりしています。

加藤 実は私は勝平に施設を建てたんです。小さいお子さんと遊べたり、1階部分を地域の方に開放して、サークル活動などができるような場所です。地域交流のベースとして使えたらなと。勝平にある自社の施設の隣に作ったんですが、まだPR不足で活用されていないのが現状です…。

菅原 私はそこを活用させてもらって、

寸劇を上演する予定です。勝平地区の方にお話を伺うと、使いたいとおっしゃっている方も多くいらっしゃいますよ。ただ、どう使っていけばいいのか、どう進めればいいのか分からないということも聞きましたので、その部分もサポートしていければと思います。



加藤 ぜひそうしましょう！ 今も勝平に住む漁師の方が、販売する場所として使いたいという申し出をしてくれたりしています。これから色々活用してもらえよう、アイデアも出していきながら広めていきたいなと思います。

井上 短大は2年で修了しますよね。それは現場としてどう感じますか？

加藤 日赤短大出身の方がどんどん活躍してくれていることもあり、「日赤」とい

うものがひとつのブランドとして見てもらえているという実感があります。もちろん他の学校を卒業した人も、専門的な学びを得てきています。ただ、日赤短大出身ということで、ある種

の安心感、信頼感を感じていただけるという状況になっています。現場にいる私たちとしては、できるだけ優秀な人材に、できるだけ早く現場に来てほしいという気持ちです。2年という期間で専門的な知識を得て、早く現場で経験を得てもらいたいです。短大2年だけでなく、もっと学びたいという人はそこからさらに他の大学への編入もできますしね。

菅原 早く社会に出られるということは、魅力的だと思います。まずは2年間学んで、その先を考えてほしいです。

加藤 私も実際に本学に入学し、2年間勉強してすぐに社会に出ました。結果として、すごく良かったと思っています。2年間勉強したことは、あくまでもベースなんです。社会に出て初めて経験を得ることができたと思います。

菅原 介護は経験値が必要とされる分野なんですよ。非常に幅が広くて、臨機応変さも求められます。専門的な知識を持っただけでは、太刀打ちできないことが数多くあります。

加藤 各事業所の上の立場の人たちにはそういう必要性がわかっている上で、日赤短大出身の人材に対して一目置いてくれるんです。

菅原 私は最近でこそなくなりましたが、卒業してからも壁にぶつかると短大に来て相談していました。そういうことを受け入れてくれる、卒業後もつながって支えてくれる場所だと思っています。私以外の学生も、介護福祉学科の学生は相談し

日赤短大出身者は、一目置かれる存在になっています。(加藤さん)





様々な地域活動に取り組んでいる市民団体等を表彰する、平成30年度「元気なふるさと秋田づくり地域活動」で、八代さんの劇団「ちいさなお世話」は秋田県から表彰されました。



に来ているみたいです。もちろん、愚痴や悩みごと相談だけじゃなく、最近の現場での話もするので、先生たちを通して学生にフィードバックされていると思うんですが…。

加藤 そうですね。私は今でも先生たちに会いに行きますよ。法律が変わったりすると、どうすべきか相談したいことも出てくるので。

井上 実際、介護福祉学科の卒業生はよく顔を出しに来てくれますね。もちろん、皆さんから教えてもらった情報は、学生たちに伝えています。本学で学んだ「赤十字の精神」は、実際に現場でも役に立っていると感じますか？

菅原 概論の授業の内容をはっきりと覚えていて、ということではないんですが、やっぱり基礎として赤十字の精神が身につけているなど感じることもあります。



八代 私は在学中よりも、卒業してから感じますね。2年間という短期で必要なスキルを身に着けて、できる限り即戦力として社会に出るわけです。その分、壁に当たるタイミングも人より早く来るんです。壁に当たるのが4年間大学に行く人よりも早いし、もちろんその分立ち直る

のも早い。実は私たちの世代は、無資格の方だったり、看護師さんだったりに教わってきたんです。まだ福祉の専門家の方たちが不在だった時代で、福祉の先輩がいっぱいいる時代じゃなかったんですよ。短大の先生方も看護師の資格の方が多かった。私たちが現場に入ったころは、無資格だけど主任をやっている人もいっぱいいました。それが、今の現場は逆転しています。当時は、年功序列の流れもあったけど、学歴や資格主義になっています。どんなに職歴が長くても、資格がなければ正職員にはなれなかったり。だから、そういう立場になったときに、2年間で学んだこととか、2年間で学んだことを経て社会に出てきたことというのを、どれだけ無資格で、未経験で入ってきた人たちに伝えていけるか。それが短大を卒業した人たちの役割になるんじゃないかと思っています。秋田県のこの業界の信頼度を上げ、レベルを上げるのは、私たち日赤短大出身者が意識をしてやるべきことなんです。もちろん、他で働いてきた人たちって、ある局面で劇的に力を発揮することがあったりしますから無資格がダメということではないですよ。新人職員のオリエンテーションもずいぶん変わってきました。学校を出てきたわけではない人たちに向けたオリエンテーションは、本当に掘り下げたところからの説明をする必要があるんですが、その説明は、誰でもできるわけではないんです。

菅原 他の方でも技術は教えることができると思うんですが、その「根拠」を教えることは、学校で基礎を学んでいないとできないんです。手順はわかっても、なぜそうする必要があるのか。そうすることでどんな効果があるのかということ、短大で学んだからこそ理解できたことなんです。だから、私自身は短大で学ぶことができ良かったと思っています。

八代 人って教わったようにしか、教えることができないんですよね(笑)。「なんでこの人、こうしてるんですか？」って聞いても「わかんない、前の人ずっとこうやってやってたからね」って。でも我々はそれじゃいけない。たとえ、経緯がわからないものがあっても、しっかり調べたり考えたりして、根拠とともに伝えていく必要があると感じています。

井上 色々な現場にいるからこそのご意見、ありがとうございました。それでは最後に、学生に向けてのメッセージをお願いいたします。

加藤 在学生の皆さんには、教えてもらっていることに自信を持ってほしいですね。社会に出たら私たち先輩もいて味方も多いし、安心して働いてもらいたい。いま本当に人材が不足しているので、スピード出世をしたいと願う人にとってはうってつけのチャンスです。介護福祉士の資格を卒業して持っていれば、新人でも管理者になれるくらい求められています。自信を持って、社会に出てきてもらいたいと思います。

イベント・活動報告!

1年間を振り返って



大学院学位論文発表会 2月23日

2月23日(金)、大学院修士課程の学位論文発表会が開催されました。大学院生は、これまでのコースワークの学修や研究をもとに修士論文を執筆し、学位審査を経て学位が与えられます。この日は「修士」の学位にふさわしい研究の成果を、緊張しながらも堂々と発表しました。



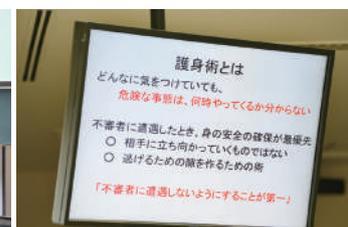
3.11プロジェクト 3月11日

3月11日(日)、「私たちは、忘れない。」～未来につなげる復興支援プロジェクト～として、学生や教職員、卒業生などが集まり、地震発生時刻の午後2時46分に黙祷を捧げました。また、赤十字防災ボランティアステーションが、これまで行ってきた支援活動について振り返りました。



入学式 4月3日

4 月3日(火)、入学式が本学体育館において行われ、看護学部114名、介護福祉学科19名、大学院8名の計141名の新生入生が、これまで慈しみ育んでくださった保護者の皆さま、両学科の実習施設ほか多くの方々の祝福の前で、「生きるを支える人になる」第一歩を踏み出しました。



学生の身を守る講習会 4月5日

4 月5日(木)、秋田東警察署のご協力で「学生の身を守る研修会」を開催しました。これは学生たちが日常に潜むさまざまなリスクやトラブルに巻き込まれることなく安全で快活な学生生活を送れるように、自分の身を自分で守ることを目的に開催しているもので、新入生133名が参加しました。



4月27日

宣誓式

4 月27日(金)に宣誓式を本学体育館において挙行し、看護学部の3年生120名と、介護福祉学科の2年生20名が参加しました。宣誓式は、学内での学びを経て施設実習に臨む学生たちが、対人援助のプロフェッショナルになるために、自らの目標を再認識し誓いを新たにするセレモニーです。





4月27日

赤十字国際人道法 教育フォーラム

4月27日(金)に第10回赤十字・国際人道法教育フォーラムを開催しました。今回は「社会福祉施設における災害対策」をテーマに、山谷勝志様より「特別養護老人ホーム愛幸園における災害対策」と題して秋田県豪雨災害の経験を、本学介護福祉学科の湊直司教授より「障がい者施設における避難の実際」と題して前職での東日本大震災の経験を、それぞれ講演いただきました。



スポーツフェスティバル

6月30日～7月1日

6月30日(土)～7月1日(日)の2日間、学生スポーツの祭典：スポーツフェスティバルが開催されました。学生たちはドッジボール、バドミントン、ソフトボール、フットサル、ソフトテニス、バスケットボール、バレーボール、スウェーデンリレーの各競技で汗を流し、親交を深めました。





ハラスメント防止対策研修会 ▶ 7月5日

7 月5日(木)、秋田県立大学キャリアカウンセラーの簾内聖子先生をお招きして、「あなたは大丈夫?—キャンパスハラスメント—」と題して、本学教職員向けの研修会を開催しました。今回は「ハラスメントとは」「セクハラについて」「アカハラについて」「パワハラについて」という各テーマのもと、大学で起こりがちな具体的な事例を交えて、ハラスメントのない大学にするために何が大切か、詳しくご説明いただきました。



登山実習 ▶ 7月14~15日

7 月14日(土)~15日(日)の2日間、看護学部2年生が選択科目授業の一環として秋田駒ヶ岳の登山実習に参加しました。山頂付近は霧がかかっており、景色はあまりよくありませんでしたが、風も穏やかに快適なコンディションの中で登山ができました。教育課程の変更で登山実習は最後となりましたが、けがやトラブルもなく秋田の大自然を満喫することが出来ました。



夏のオープンキャンパス ▶ 7月22日

秋のオープンキャンパス ▶ 9月22日

7 月22日(日)に夏の、9月22日(土)に秋のオープンキャンパスを実施し、県内外から多数の皆さまにご参加いただきました。体験実習、模擬授業、個別相談など、数多くのイベントで皆さまをお迎えしました。中でも本学と専用ブリッジでつながる秋田赤十字病院を基地病院とする「秋田県ドクターヘリ」の見学体験は大人気で、皆さまの関心の高さを実感しました。





赤十字海外 8月18~26日 スタディーツアー (イタリア・スイス)

看 護学部1年生3名と引率教員1名が、8月18日(土)から26日(日)の日程で、姉妹校である日赤看護大学・日赤広島看護大学との共催で「赤十字海外スタディーツアー」に参加しました。このツアーでは、赤十字発祥の地であるソルフェリーノ(イタリア)と赤十字の創設者アンリー・デュナン誕生の地ジュネーブ(スイス)を訪れ、国際赤十字の歴史・組織・活動及び国連の人道・開発期間の役割について理解を深めることを目的として、毎年開催されています。



赤十字6大学学生交流会 8月21日・22日



全 国6カ所の赤十字看護大学(北海道・秋田県・東京都・愛知県・広島県・福岡県)では、各大学の学生が一同に集まり、親交と学習を深める学生交流会を持ち回りで開催しています。今年度は8月21・22日の2日間、看護学部の学生たちの企画で開催され、3年生6名・2年生5名が参加、主に3年生が中心となり「野外キャンプを通して、防災・減災のノウハウを楽しく学ぶ」と「東日本大震災から7年を経た現在の被災地の状況を知る」という2つを大きなテーマとして、本学の防災キャンプへの参加と、東日本大震災の被災地訪問を行いました。



9月20日

災害救護訓練

9月20日(木)に平成30年度災害救護訓練を実施しました。これは災害時に行われる医療救護活動や社会福祉施設利用者の避難支援活動における支援者の役割を理解し、将来、災害医療救護・災害福祉の推進者として成長できるように基礎的能力を培うことを目的に行われました。



9月21日

看護学部 合同就職説明会

9月21日(金)に看護学部の合同就職説明会を行いました。県内外27の病院から、看護部長さんや師長さん、各病院で活躍している卒業生も後輩に会いに来てくれました。学生たちは説明に熱心に聞き入り、勤務状況や院内教育の体制、福利厚生や休みの日の過ごし方などさまざまな質問を投げかけ、将来の看護師としての自分自身のキャリアに対する関心と意識の高さがうかがえました。





防災キャンプフェス 9月22日・23日

9月22日(土)、23日(日)、日赤秋田県支部ほか赤十字施設と秋田魁新報社などで組織するAKITA防災キャンプフェス実行委員会の主催で、本学を会場に開催しました。初日は時折強い雨に降られました。翌日は秋の日差しがまぶしい晴天となりました。2日間を通して、5461人の来場者の皆さまと一緒に「防災を楽しく学ぶ」ことができました。



カリヨン祭 10月6日

10月6日(土)に学友会主催のカリヨン祭(学園祭)が開催されました。大西ライオン、ソラシド、桂山河の皆さんによるお笑いライブ、本学サークルによる演奏や、秋田大学、国際教養大学など他大学の学生の皆さんも参加のバンドライブ、学生ホールでは、防災ミニワークショップ、献血セミナーなどの催しも開催されました。



「精神看護分野」の専門看護師（CNS）の養成を新たに開始します！

本学では大学院修士課程において専門看護師（CNS）を養成していますが、現在の「がん看護分野」に加えて新たに、平成31（2019）年度の入学生から「精神看護分野」の専門看護師養成を開始する見通しとなりました（教育課程変更を文部科学大臣へ申請中）。専門看護師は、水準の高い看護を効率よく行うための技術と知識を深め、卓越した看護を実践できると認められた看護師で、「専門看護分野」ごとに公益社団法人日本看護協会が認定しています。「精神看護学分野（38単位）」の教育課程開設は秋田県内で初めて、東北地方でも3校目となります。

専門看護師教育課程に関するお問い合わせ

学務課大学院担当 TEL.018-829-4171 g-school@rcakita.ac.jp

高校生・保護者のための

Open Campus

2019.3.16 10:30~
(SAT)

2019.7.21 10:30~
(SUN)

2019.9.21 10:30~
(SAT)

2020.3.20 10:30~
(FRI)



看護学部



介護福祉学科

実施予定 内容

- ドクターヘリ見学
- 個別相談
- 先輩たちと語ろうコーナー
- キャンパスツアー（学内見学）
- 学部学科紹介と教育内容
- 学生募集・入学試験の説明
- 模擬授業（講義や体験）



【本学へのご寄付のお願い】

本学は1996年の開設以来、赤十字の「人道：Humanity」の精神を受け継ぐ、東北地方唯一の高等教育機関として、看護教育・介護福祉教育を行なってきました。現代社会や地域のニーズに応える新たな大学像を目指し、高大連携授業や出前講座の実施、大学院等を活用した学び直しの拡充などに、今後も邁進してまいります。本学の教育・研究の更なる発展、学習環境の充実及び学生生活支援の拡充、地域防災教育活動推進などのため、皆さまの温かいご支援・ご協力をお願い申し上げます。

■ 寄付の手続き

(1) 個人の場合

- ① 電話にて経理課にご連絡ください。寄付申込書等の必要書類をお届けいたします。また、ご不明な点は、何なりとお問い合わせください。
- ② ゆうちょ銀行（郵便局）から直接お振り込みされる場合は、下記のゆうちょ銀行（郵便局）からの寄付の手続きについてに記載の口座をお願いいたします。

(2) 法人の場合

- 電話にて事務局（部）経理課にご連絡ください。寄付申込書等の必要書類を送付いたします。また、ご不明な点は、何なりとお問い合わせください。

■ 寄付の単位

(1) 個人の場合

- 一口 1,000円
おひとりさま何口でもご寄付いただけます。

(2) 法人の場合

- 一口当たりの金額は設けておりません。

左記の詳細は
本学公式サイトを
ご覧ください。

■ ゆうちょ銀行（郵便局）からの寄付の手続きについて

【大学（看護学部）へのご寄付】 ゆうちょ銀行（郵便局） 口座記号・番号： 02210-9-142099 加入者名： 日本赤十字秋田看護大学
【短大（介護福祉学科）へのご寄付】 ゆうちょ銀行（郵便局） 口座記号・番号： 02200-1-122694 加入者名： 日本赤十字秋田短期大学

【お願い】

○通信欄に、ホームページへのご芳名掲載希望の有無をご記入ください。○寄付金の用途にご希望のある方はお書き添えください。例）実習室の充実 など

【税制上の優遇措置】

本学への寄付金は、特定公益増進法人に対する寄付として、所得税の税制上の優遇措置を受けることができます。寄付受領後に、免税に必要な「受領書」などをお送りします。

【申し込み・問い合わせ先】

事務局 経理課
電話：018-829-3014
FAX：018-829-3030
E-mail：keirika@rcakita.ac.jp

本学大学院の修了生より 「がん看護専門看護師」が誕生しました!

このたび、公益社団法人日本看護協会の平成30年度専門看護師認定審査において、
本学の大学院修士課程がん看護学分野（高度実践看護師養成課程）を修了した3名の看護師が
専門看護師（CNS）として認定されました。誠にありがとうございます。
本学に隣接する秋田赤十字病院にお勤めの看護師 川原明子さんより、メッセージをいただきました。

秋田赤十字病院
がん相談支援センター看護師 川原明子さんよりメッセージ



専門看護師を目指そうと思った理由

がん患者とその家族との関わりの中で、がんに伴う苦痛の軽減やその人らしさを大切にしたいケアなど、看護師・医療チームが方策を見出せず困難に直面することが多々ありました。その現象を、専門的知識をもとにアセスメントし、患者家族の苦痛の軽減や、価値観を優先したケアにつなげ、それらを通して携わるスタッフのメンタルケアにつなげたいと考えたからです。

入学後の大学院での学修についての感想

大学院の授業は、38単位のがん看護専門看護師養成課程となっています。高度看護実践に必要な専門的知識の習得や、物事の本質をとらえ、客観的・論理的思考を用いる訓練をしました。また、教育、管理、研究の発展に寄与する幅広い知識の習得を目指す内容となっています。関東のがん専門病院や著名な専門看護師の講義や実習も貴重な体験でした。

専門看護師としての立場や役割について抱負

専門看護師は、解決困難な看護問題を持つ方々に対して水準の高い看護ケアを提供するための知識及び技術を深めた看護師です。複雑で解決困難な現象を、科学的根拠に基づき、包括的にとらえ、患者家族の価値観を大切に、看護師や保健医療福祉の従事者と協働して課題に対する方策を明らかにしていきたいと考えています。

専門看護師を目指す同僚や後輩へ ひと言

専門看護師になるには大学院への進学が必要で、意欲はもちろん、環境を整えることが重要です。職場や家族の理解、支援が必要です。相談会では学校側が受験者の生活環境も考慮して相談に応じてくれ、入学後も安心して学べるよう支援してくれます。秋田県で38単位のがん看護専門看護師教育課程で学べる環境は貴重です。「希望」を「現実」にしてみませんか?

指導教員からひとこと 大学院がん看護学分野 下平唯子先生・木庭淳子先生

川原さんは専門看護師になるために、病院で勤務しながら大学院のカリキュラムを修了されました。授業では毎回レポートを書き、レポートを基に討論しながら知識や技術を深められました。また、実習では専門看護師のいる病院で指導を受けながら勉強会を主催し、がん患者さんや家族への援助を通して実践能力に磨きをかけられました。そして卒業後も臨床で経験を積み、専門看護師審査に合格されました。

専門看護師とは、5年以上の専門分野で勤務し、看護系大学院修士課程で必要な単位を修得し、専門看護師認定審査に合格することで取得できる資格です。がん専門看護師は、より困難で複雑な健康問題を抱えた患者さんや家族へより質の高い看護を提供する役割や病院や地域の看護の質の向上に寄与する役割があります。がん死亡率の高い秋田県では今後、がん看護専門看護師の活躍に一層の期待が寄せられています。

川原さんたち3名の修了生は、これからがん専門看護師として活躍され、秋田県のがん看護の質の向上に貢献されると確信しています。臨床で働く看護師の皆さんも、本学大学院で専門看護師を目指して一緒に学びませんか?お待ちしております。

※「高度実践看護師教育課程（専門看護師）」については、本学ホームページをご覧ください。 <https://www.rcakita.ac.jp/graduate/certified>

Message メッセージ

秋田赤十字病院 院長 小棚木均先生

当院3人目の専門看護師（急性・重症患者看護1名、がん看護2名）の誕生をたいへん嬉しく思います。当院では今後とも、専門、認定および特定行為等の看護師を増やしていきます。

秋田県は、がん罹患率や死亡率が高く、それへの対応が望まれます。川原明子看護師には、他のがん関連の専門・認定看護師（院内計6名）と力を合わせ、院内のみならず全県のがん患者のQOLを高める活動をしていって欲しいと思います。

秋田赤十字病院 看護部長 山岡ふき子先生

川原さんは、がん看護の実践を通して自己のキャリア志向を明らかにし、より質の高い看護実践のために専門知識を学ぶ意志を固めました。専門性の高い看護実践力を基に、患者・家族に寄り添い真摯な姿勢で、看護を提供できる人材であると期待しています。専門看護師は、看護ケアの改善や看護の質の向上のために、広い視野を持ち、ニーズを見極め、自らの力が成果につながります。ぜひ、自己のキャリアデザインを描き挑戦してください。